

宮川総合水系環境整備事業 説明資料

平成24年10月31日

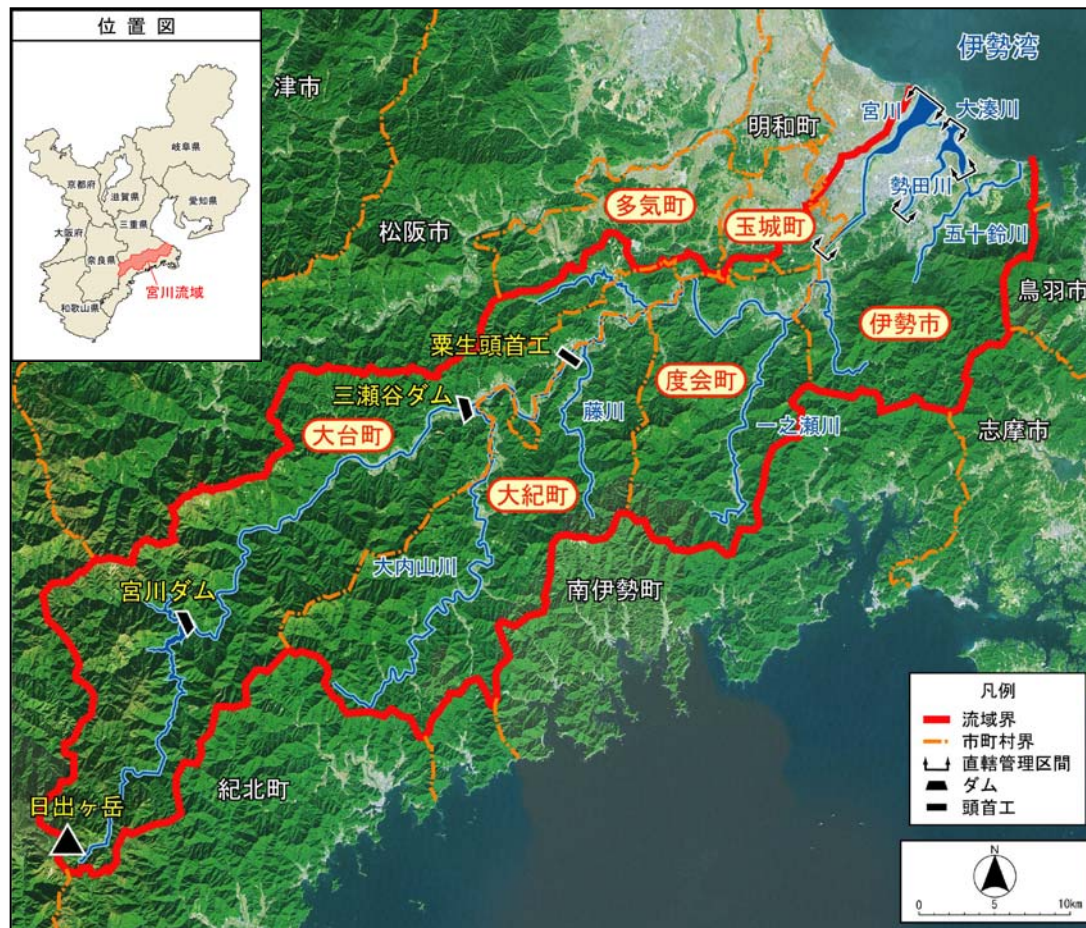
国土交通省 中部地方整備局
三重河川国道事務所

目 次

1. 事業の概要	
(1) 流域の概要	1
(2) 事業の目的	3
2. 計画内容と事業の投資効果	4
3. 費用対効果分析	8
4. 評価の視点	
(1) 事業の必要性等に関する視点	
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	1 1
2) 事業の進捗状況	1 2
(2) 事業の進捗の見込みの視点	1 3
(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	1 3
5. 県への意見聴取結果	1 4
6. 対応方針（原案）	1 4

1. 事業の概要

(1) 流域の概要



宮川流域図

■宮川流域諸元

- 水源：三重県多気郡大台町の日出ヶ岳
(標高1,695m)
- 流域面積 920km²
- 幹川流路延長 91km
- 国管理区間 11.6km (宮川)
1.7km (大湊川)
3.2km (五十鈴川)
6.1km (勢田川)
- 流域内市町村 1市5町
主要都市 伊勢市
- 流域内人口 約14万人
- 年平均降水量 約3,400mm超 (山間部)
約2,000~2,500mm (平野部)
- 水質 (BOD75%値) 0.5mg/l (H23宮川度会橋)

(今回評価について)

(再評価)

		宮川総合水系環境整備事業	
H17			
H18			
H19			
H20			
H21			
H22	再評価		
H23			
H24	再評価	再評価	
H25			
H26			
H27			
H28			
H29			
H30			
H31			
H32			

宮川勢田川
水辺整備

再評価

昼田地区
水辺整備

(2) 事業の目的

- ・宮川・勢田川は古くから伊勢神宮との関わりが深く、渡し跡などの歴史文化資源が残されているが、高水敷に不連続な区間が存在するなどにより、連続的・広域的な活用が妨げられていた。
- ・宮川・勢田川に残されている自然環境や歴史文化資源を活用し、連続的に利用できる河川空間を整備することにより、伊勢神宮をはじめとした周辺の歴史文化資源との連携を図り、地域の魅力の向上と活力ある都市空間の形成に寄与することを目的とする。



①勢田川舟運



③宮川桜づつみ



②川の駅「河崎」



④ラブリバー公園

事業名	実施箇所	目的	内容	期間
宮川勢田川水辺整備	御園地区	上下流の公園と一体となった利用空間の形成を図る。	管理用通路整備	H24
	川端地区	水辺に親しめる親水空間の形成を図る。	低水護岸整備 高水敷整正 緩傾斜堤防整備	H19~23
	勢田川地区	水辺に親しみ、歴史情緒溢れる町並みと一体となった河川利用を図る。	護岸整備	H21~23
屋田地区水辺整備	屋田地区	親水空間の形成を図る。	低水護岸整備 高水敷整正 管理用通路整備	H25~27

2. 計画内容と事業の投資効果（再評価）

宮川勢田川水辺整備

整備の必要性

<背景>

- 宮川や勢田川には、伊勢神宮と関わる渡し跡や舟運、また古い街並みなど、さまざまな歴史的な資源が点在している。
- 平成25年の式年遷宮に向けて、伊勢市では、歴史ある街並みの散策や既存の観光スポットを活用し、市街地整備と一体となった水辺整備により、川が都市の賑わいの中心となるような魅力ある水辺の創出を行うこととしている。

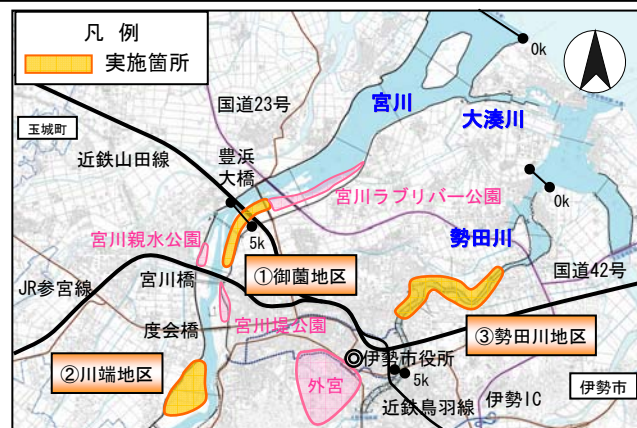
<課題>

- 高水敷には樹木が繁茂し、連続した利用ができない。また、水辺に近づけず、安全な利用が妨げられている。
- 勢田川の護岸は、一部未整備な区間が存在し、連続した利用が妨げられている。

<対策>

- 宮川、勢田川において、広い高水敷の整備や既存施設を活用し、散策などによる連続的な利用ができる水辺空間整備といった、基盤の整備を実施する。

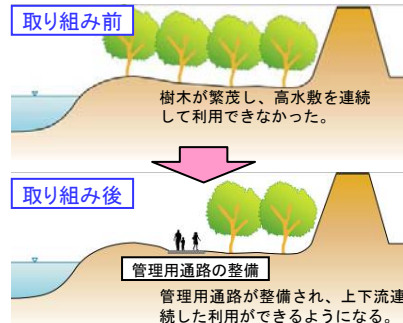
整備箇所



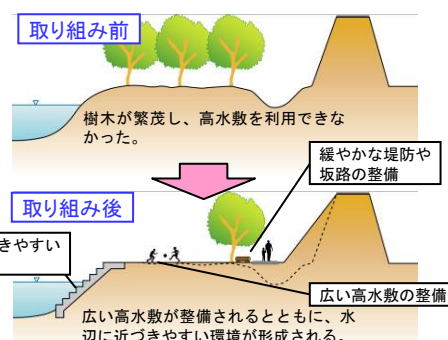
整備内容

- 高水敷整備 (235,700m²)
- 護岸整備 (3,200m)
- 緩傾斜堤防整備 (876m)
- 管理用通路整備

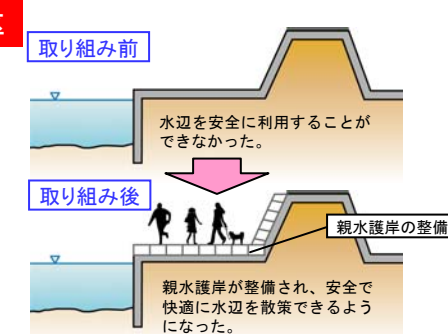
①御園地区



②川端地区

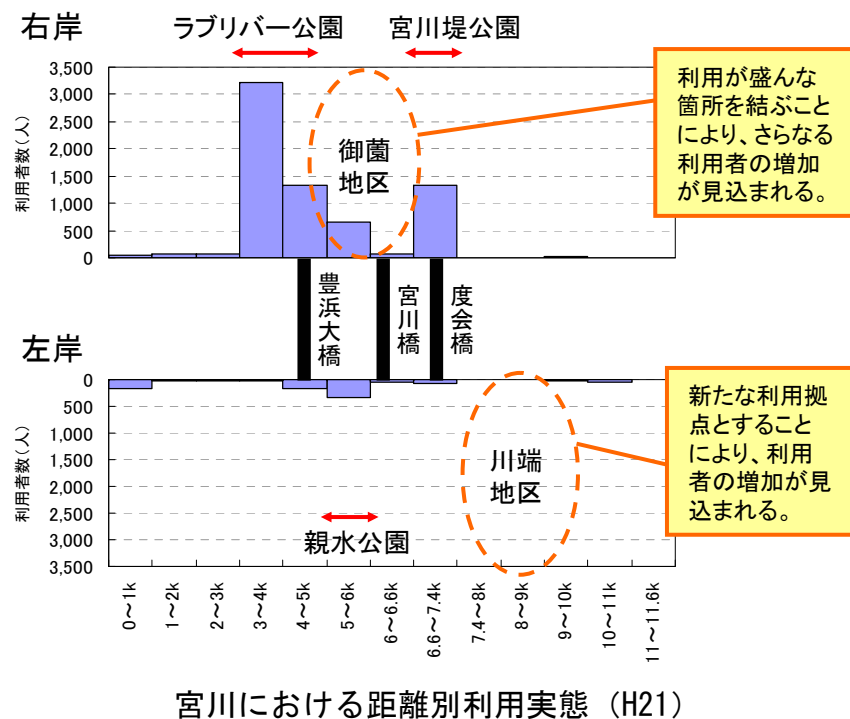


③勢田川地区



事業の投資効果

- ・ 宮川、勢田川で水辺を安全・快適に利用できるようになり、水と親しみやすくなることが期待される。
- ・ 伊勢神宮などの周辺観光地と連続した利用ができるようになり、さらなる利用の活性化が期待される。
- ・ 安全で利用しやすくなることから、環境教育などの場としての利用の拡大が期待される。



宮川・勢田川周辺の利用施設



利用状況



高水敷利用
(宮川堤公園)



水辺利用
(勢田川; どんどこ祭り)



水面利用
(宮川7k付近)

主な周辺施設



①海ノ駅「神社」



②川の駅「二軒茶屋」



③宮川堤公園

昼田地区水辺整備

整備の必要性

<背景>

- ・当該地区は、伊勢地区かわまちづくりによる整備が行われている川端地区に隣接しており、連続した河川空間の整備により利用拡大が見込まれる。
- ・玉城町により、広い高水敷の活用が望まれている。
- ・河川空間管理計画では、自然利用ゾーンとして位置付けられており、自然とのふれあいの場としての利用が求められている。

<課題>

- ・樹木が繁茂し、高水敷を利用できない。また、階段などがなく、水辺に近づけないため、安全な利用が妨げられている。

<対策>

- ・宮川の自然を活かした利用空間の整備を図る。
- ・水辺に安全に近づけるよう、親水護岸の整備を行う。

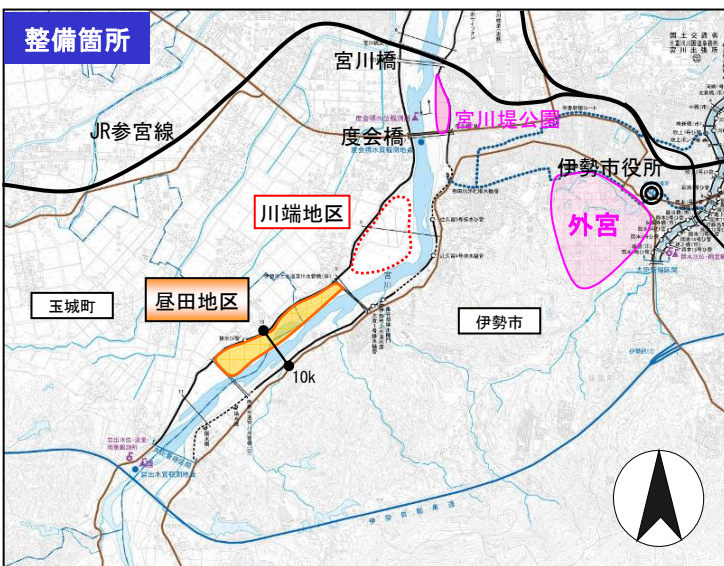
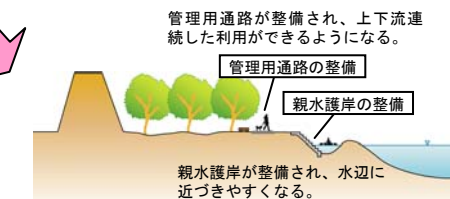
整備内容

- ・高水敷整備 (85,400m²)
- ・管理用通路整備 (1,800m)
- ・親水護岸整備 (800m)
- ・多目的広場整備 (玉城町)

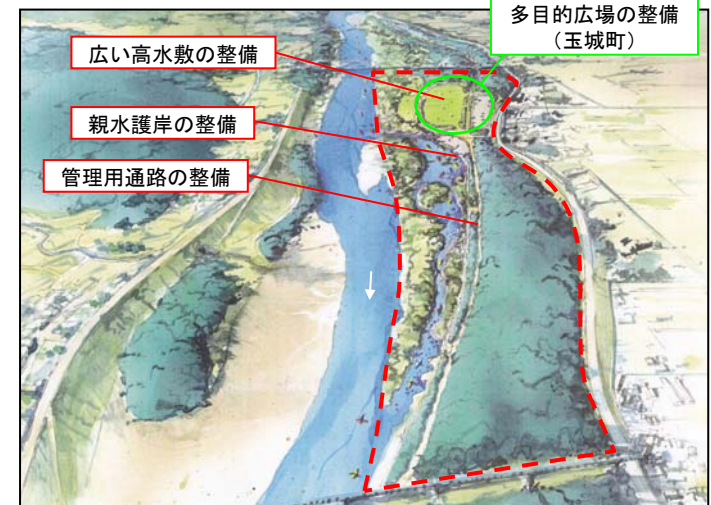
整備前



整備後



取り組み前

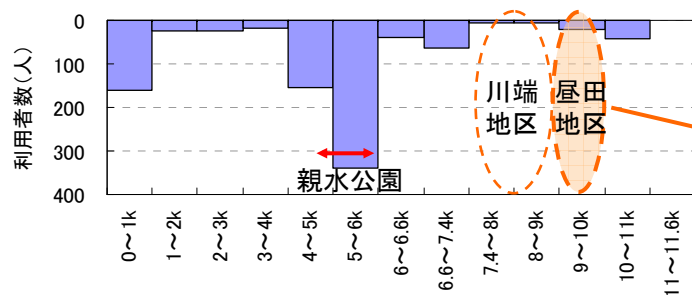


取り組み後 (イメージ図)

事業の投資効果

- ・ 宮川の高水敷を安全・快適に利用できるようになり、スポーツやレクリエーション、地域住民の憩いの場となることが期待される。
- ・ 安全に川に近づけるようになることから、宮川の自然環境にふれあえる場となり、自然を活かした環境教育や自然観察の場としての利用の拡大が期待される。
- ・ 隣接する利用拠点と連続的に利用できる河川空間を整備することにより、さらなる利用の活性化が期待される。

左岸



宮川における距離別利用実態 (H21)

川端地区と隣接する新たな利用拠点として、自然とふれあう場などとして利用者の増加が期待される。



環境教育の場としての利用の拡大が期待される。

H24. 7撮影

水生生物調査の実施状況 (宮川7k付近)

整備イメージ



H24. 1撮影

地域住民の憩いの場として、高水敷利用の促進が期待される (宮川ラブリバー公園の例)。



宮川の自然環境へふれあえる場としての利用が期待される (宮川小俣地区の例)。

3. 費用対効果分析

再評価

宮川総合水系環境整備事業(再評価)

事業全体に要する総費用(C)は17億円、総便益(B)は34億円、費用対便益比(B/C)は2.0となる。

事項		宮川総合水系環境整備事業		備考
地区名		水辺整備		
		宮川勢田川水辺整備	昼田地区水辺整備	
計算条件	評価時点	平成24年度	平成24年度	
	整備期間	平成19年～平成24年	平成25年～平成27年	
	評価対象期間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	
	受益範囲	5km	5km	
	年便益算定手法	CVM 配布数：2,005票 回収数：769票（38.4%） 有効回答数：467票（60.7%） 対象世帯数：56,838世帯	CVM 配布数：1,813票 回収数：676票（37.3%） 有効回答数：399票（59.0%） 対象世帯数：33,988世帯	
	支払意思額 （円/月・世帯）	221	177	
B/Cの算出	事業費 （億円）	11.4	3.7	
	維持管理費 （億円）	1.2	0.31	必要額の積上げ 割引率4%で現在価値化
	総費用（C） （億円）	13	3.8	割引率4%で現在価値化
	年便益 （億円/年）	1.5	0.72	WTP×世帯数×12ヶ月
	残存価値 （億円）	0.34	0.036	割引率4%で現在価値化
	総便益（B） （億円）	35	14	割引率4%で現在価値化
	B/C （事業毎）	2.7 ※	3.7 ※	総便益（便益＋残存価値） 総費用（事業費＋維持管理費）
	B/C （水系）	2.0		

※は参考値

(感度分析)

事 項			宮川総合水系環境整備事業	
地区名			水辺整備	
			宮川勢田川水辺整備	昼田地区水辺整備
箇所別 B／C	全体事業 B／C	事業費 (+10%～-10%)	2.7～2.7	3.4～4.1
		受益世帯数 (+10%～-10%)	2.4～2.9	3.2～3.9
		工期 (+10%～-10%)	— (残工期5年未満)	— (残工期5年未満)
	残事業 B／C	事業費 (+10%～-10%)	—	3.4～4.1
		受益世帯数 (+10%～-10%)	—	3.2～3.9
		工期 (+10%～-10%)	—	— (残工期5年未満)
水系 B／C	全体事業 B／C	事業費 (+10%～-10%)	1.9～2.0	
		受益世帯数 (+10%～-10%)	1.8～2.2	
		工期 (+10%～-10%)	— (残工期5年未満)	
	残事業 B／C	事業費 (+10%～-10%)	3.4～4.1	
		受益世帯数 (+10%～-10%)	3.2～3.9	
		工期 (+10%～-10%)	— (残工期5年未満)	

(前回評価時の費用対効果)

事項		前回評価	備考
事業諸元		宮川水辺整備事業 1式	■評価対象事業 ＜水辺整備事業＞ 宮川勢田川水辺整備
計算条件	評価時点	平成22年度	
	整備期間	平成19年～平成24年	評価対象事業の整備期間
	評価対象期間	整備期間+50年間	
	受益範囲	5km (56,915世帯)	受益範囲：アンケート調査結果による対象事業箇所への来訪者数の距離より決定 世帯数：各対象事業の受益範囲内の町丁目単位の世帯数
	年便益算定手法	CVM 配布数：1,332通 回収数：598通 (回収率44.9%) 有効回答数：338通 (有効回答率56.5%)	
	支払い意思額 (WTP)	285円/月・世帯	
B/Cの算出	総事業費 (億円)	11.7	評価対象事業の事業費 (国)
	維持管理費 (億円)	1.2	事業費 (国) の0.5% 割引率4%で現在価値化
	総費用 (C) (億円)	12.7	事業費+維持管理費 割引率4%で現在価値化
	年便益 (億円/年)	1.95	アンケート調査結果より算出
	残存価値 (億円)	0.36	残存価値を評価 割引率4%で現在価値化
	総便益 (B) (億円)	39.0	アンケート調査結果より算出 割引率4%で現在価値化
	B/C	3.1	$\frac{\text{総便益(便益+残存価値)}}{\text{総費用(事業費+維持管理費)}}$

(今回評価時の費用対効果)

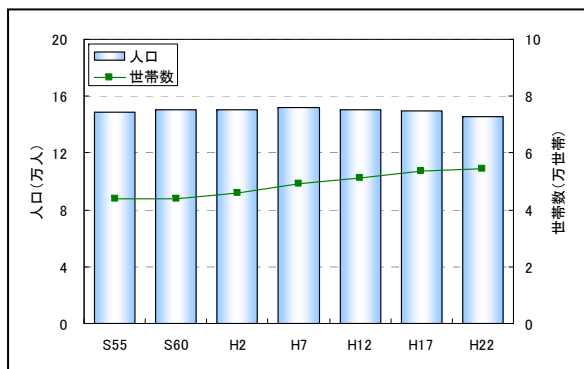
今回評価		備考
宮川水辺整備事業 1式		■評価対象事業 ＜水辺整備事業＞ 宮川勢田川水辺整備 昼田地区水辺整備
平成24年度		
平成19年～平成27年		前回評価と同じ
整備期間+50年間		
5km (61,994世帯)		受益範囲：アンケート調査結果による対象事業箇所への来訪頻度より決定 世帯数：各対象事業の受益範囲内の町丁目単位の世帯数
CVM 配布数：1,813～2,005通 回収数：676～769通 (回収率37.3～38.4%) 有効回答数：399～467通 (有効回答率59.0～60.7%)		
177～221円/月・世帯		
15.1		評価対象事業の事業費 (国+自治体)
1.5		実績値により算出 (国+自治体) 割引率4%で現在価値化
17		前回評価と同じ 割引率4%で現在価値化
1.5		前回評価と同じ
0.38		前回評価と同じ
34		前回評価と同じ
2.0		前回評価と同じ

4. 評価の視点

(1) 事業の必要性等に関する視点

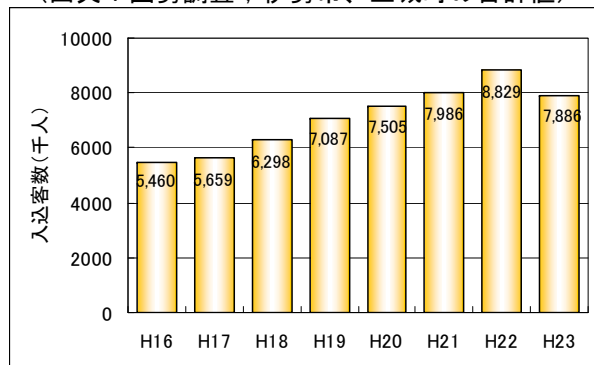
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・ 宮川下流部の人口は、近年ほぼ横這いであるが、世帯数は増加している。
- ・ 伊勢神宮の入込客は、平成16年以降増加傾向であり、平成25年の式年遷宮に向けて、さらなる観光客の増加が期待される。
- ・ 宮川流域ルネッサンスの取り組みである、流域案内人による生物観察や清掃活動、デイキャンプなどの行事やその参加者数は年々増加しており、宮川を訪れる人は増加している。



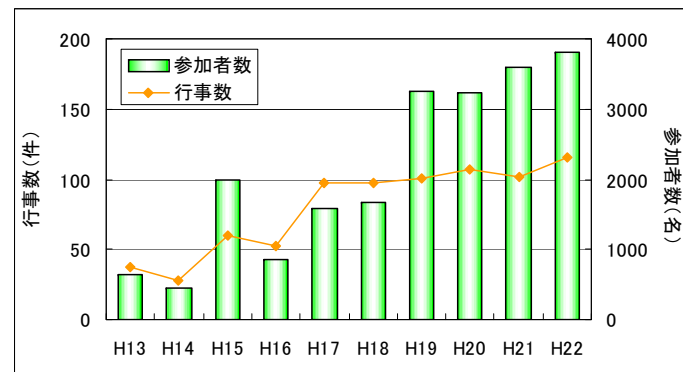
宮川下流部の沿川自治体人口・世帯数の変遷

(出典：国勢調査；伊勢市、玉城町の合計値)



伊勢神宮入込客数の変化

(出典：三重県；平成23年観光レクリエーション入込客数推計及び観光客実態調査)



宮川流域案内人による行事数及び参加者数

(出典：宮川流域ルネッサンス取組実績と今後の取組について (H23. 12三重県政策部))



H23. 7撮影

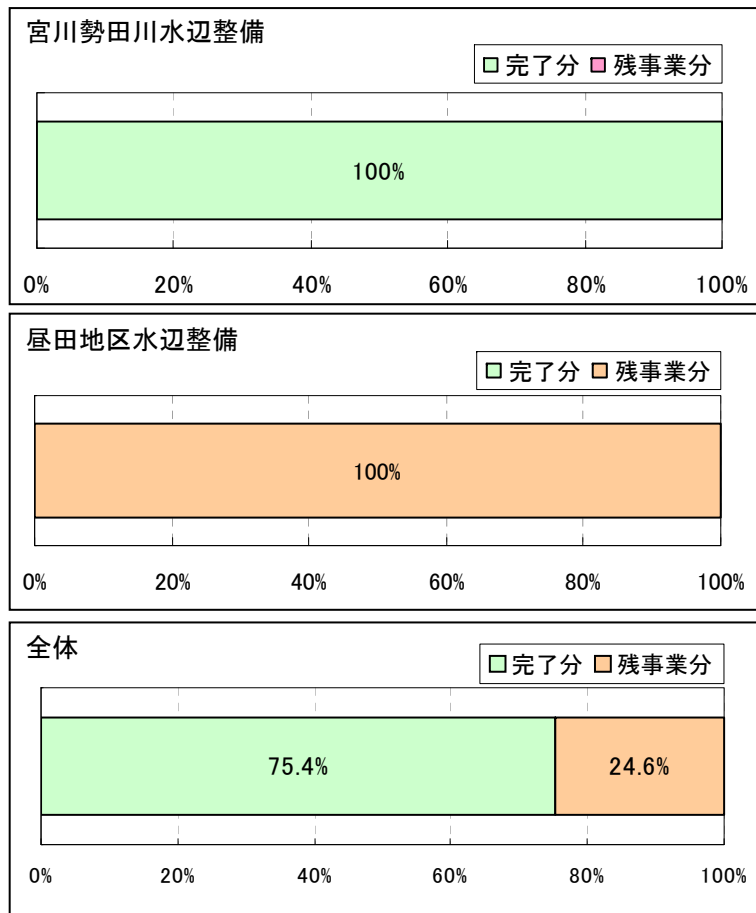
勢田川七夕大掃除

2) 事業の進捗状況

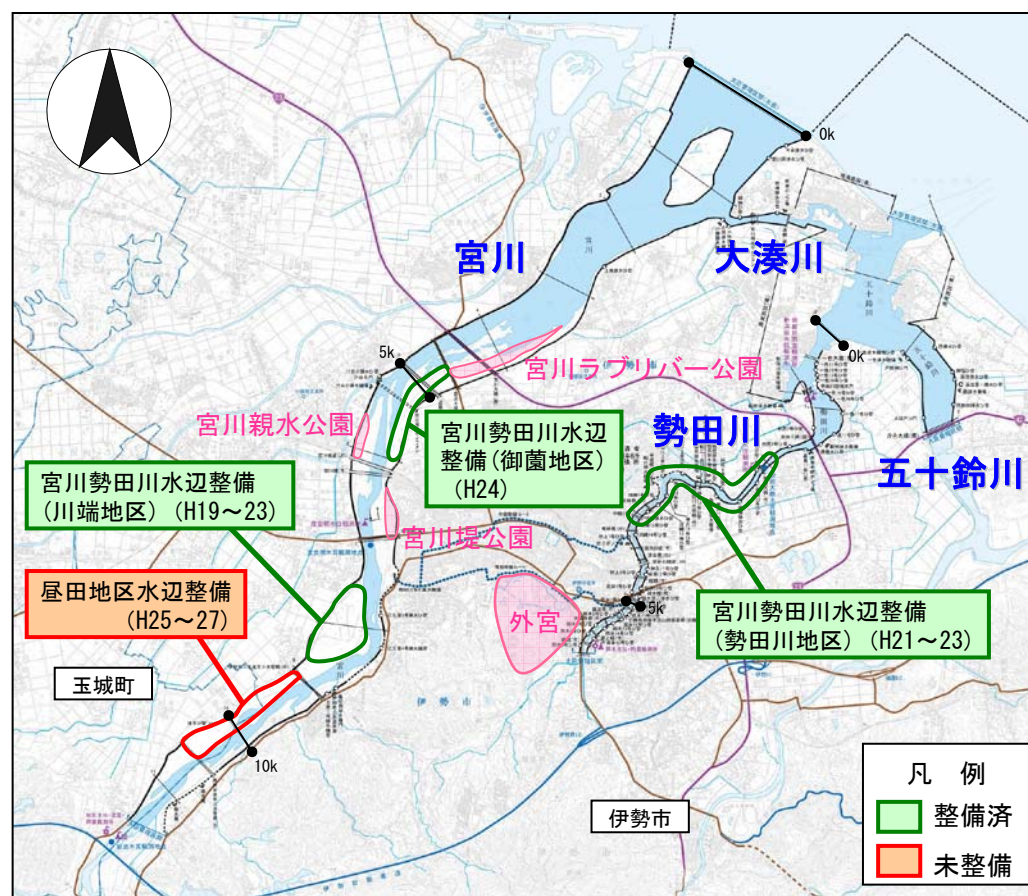
全体事業費：1,514.2百万円

実施済み：1,141.8百万円

残事業費：372.4百万円



事業の進捗状況
(事業費ベース；平成24年度末時点)



再評価対象事業の実施箇所

(2) 事業の進捗の見込みの視点

- ・宮川勢田川水辺整備事業では、伊勢市との調整のもと、計画が進められている。また、地域と一体となった環境保全活動（勢田川の浄化活動など）を実施している。このようなことから、今後事業を進めるにあたって大きな支障はないと考える。
- ・昼田地区水辺整備事業では、平成25年度から事業に着手する予定であり、玉城町においても事業計画が進められている。



とおりゃん瀬の
清掃活動



川と海のクリーン
大作戦
(宮川10k左岸付近)

(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・御園地区の樹木伐開により発生する樹木は、一般への無料配布により処分費の削減を図るものとし、約100万円のコスト縮減が見込まれる。



伐開樹木の配布状況（宮川）



チップ化による配布事例（他河川の事例）

5. 県への意見聴取結果

(三重県)

- ・本事業は、宮川水系が有する魅力ある歴史文化や豊かな自然環境を安全に利活用できる水辺空間形成のために必要な事業です。今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、効率的な事業執行によるコスト縮減と早期完成に向けた事業の確実な推進をお願いします。

6. 対応方針（原案）

- ・宮川において、地域の河川利用に対する需要が見込まれ、事業の必要性は高い。
- ・以上のことから、引き続き宮川総合水系環境整備事業を継続する。